

第2回 甲賀市総合計画審議会意見（抜粋）

- 世界的に脱成長主義への転換期となっている。日常の暮らしを大切に、持続可能性を重視する方向へ転換すべき。今後は、本当に困窮した人が顕著に見えることから、その対応を重視すべき。
- 国から一時的な支援はあったが、経済的な冷え込みがいつまで続くのか不安。
- 対面販売や展示会の開催が減り、外に出る機会が失われている。不安が大きくなり、気分が沈んでいる。
- 障がいを持っており、コロナ禍で外出が困難になったが、リモート会議等への参加によりパソコン学習の機会となるなど、メリットも感じている。
- 現場や介護職など、リモートにできない職種もあることを忘れてはならない。
- リーマンショック時と比して、日本語や支援制度を理解している外国人が増えた。
- 映画やドラマの世界であったパンデミックが目の前で起こり、死のリスクを日常的に感じるなど、社会変革の大きな機会となった。
- 日本企業の多くが業績を悪化させている。経済、雇用対策や生活支援対策は、来年度も引き続き必要ではないか。
- コロナ禍のような事態は誰も経験がなく、未来を想像することは難しい。
- キャンプ等の外遊びが新たなトレンドとなり、新たな希望となるのではないか。
- AIに任せるところは任せて、個人の得意分野を活かせる社会となってほしい。
- 不特定多数との対面が制限されているが、意識して顔の見える地域のお店から商品を購入するようにしている。「⑫地産地消」の仕組みは今後も続いたほうがよい。
- 空き家の活用など「⑥みんなの居場所」づくりが進んでほしい。
- 「④次世代教育」の新しい取り組みより、特別支援学級への対応を充実させるべきではないか。
- リモートワークへの機運が高まり、地方への移住が加速している。これまで以上にICTの推進に取り組んでほしい。
- 世界的な新型コロナウイルス感染症拡大により、「国際交流」の視点が薄れているのではないか。
- 防災情報が提供されるまでのスピードに不安を感じている。スピード感のある情報共有の方法を検討してほしい。
- コロナ禍で立場の弱い外国人市民などの解雇などが増加している。そのような人を支える優しさをもった市民が増えてほしい。
- 傾聴できる人間、また、相手の立場になって考えられる人を育てることが重要。